

令和2年度 学校評価一覧表

項目	担当	重点目標	具体的方策	留意事項	評価	評価結果及び今後の課題
<p>★カリキュラムマネジメント(授業の質の向上) 連続性のある教育課程の構築・評価の在り方を意識した授業改善・キャリア教育・ESD活動・社会的資源 ★スクールマネジメント(学校力の向上) 学校事故の未然防止と緊急対応・いじめ防止・個人情報管理・関係機関との連携体制・業務改善・多忙化 ★スタッフマネジメント(教師力の向上) PDCAに基づく実践力・人権に配慮した教育実践・ICT活用・保護者との合意形成・教師としての実践力</p>						
授業の質の向上	小学部	目指す子ども像を実現するための年間指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の指導、生活単元学習・遊びの指導、自立活動の3グループで取り組む。 グループごとに新学習指導要領の各段階における目標を表にしてまとめる。 グループごとにまとめた表と昨年度研究で作成した指導内容一覧を年間指導計画と照らし合わせる。その後、年間指導計画の内容の再配置や追加などの改善を行う。 部全体で各グループの経過報告をし、情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に準拠した内容となるように研修会を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の指導、生活単元学習・遊びの指導、自立活動のそれぞれのチームにおいて学習指導要領を参考にしながら内容表の作成を行った。 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で学習内容にかなり制約があり、内容表の作成においては実践からフィードバックしにくい状況があった。 総括としては、当初の予定よりも内容が深く、計画していた進捗で進めることが難しくなった。できるところまでをまとめ、次年度へつなげていきたい。
	中学部	生活単元学習の見直しの成果の検証	<ul style="list-style-type: none"> 前年度、校内研究で見直しを行った生活単元学習が今年度、どのように展開されたかを評価する。 年間指導計画の実施状況および校外学習の事前事後指導の評価を中心に検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学部段階の3年間での指導内容の在り方という視点で評価・改善を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はコロナ禍での学習となり、学習内容の見直しを繰り返すことになった。検証したい校外学習はほぼ行えない状況だったが、中学部3年間を意識した指導という視点では、前年までの研究を生かした話し合いや指導が行えた。
	高等部	卒業後の生活へのスムーズな移行を目指した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の指導において、生徒一人一人の特性に応じた授業実践を行い、生徒の主体性を高める。 校外での体験的、実践的な活動を通して得られた評価を生かし、作業学習の改善と充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動においては指導計画を作成し、計画的に指導・支援を行う。 地域や関係機関との連携について見直しを図り、具体的な改善策を探る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> A・B類型の生徒の自立活動(週1時間)の学習指導年間計画を作成した。校内研究の実践内容を参考にし、継続的かつ主体的な学びの場となるよう指導内容の整理が必要である。週1時間の授業時間で、どのように成果をあげていくか検討が必要である。 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響で、体験的、実践的な校外作業学習や校外学習等についてはかなりの制約が出た。 愛知県立農業大学校と連携を図り、作業学習の授業時間を利用して、生徒と職員が農業に係る研修ができたことは意欲とスキルの向上につながった。本校なりの農福連携に発展できるとよい。 進路支援部が中心となり、校外作業学習先を新たに3事業所開拓した。生徒の体験的な活動の広がりにつながると考える。
	情報図書	学校図書の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> 自治体の施設(岡崎市中央図書館 りぶら)との連携を図り、児童生徒が興味のある内容や、時代に即した内容の書籍を用意し、多くのニーズに応えられるようにする。 図書購入の検討の際に外部と連携をする。 	<ul style="list-style-type: none"> セット貸出し制度を利用する。書籍の破損・紛失には十分注意し、貸出先を明確にする。 夏季休業中に図書選定を行う。業者に見本の本をもってきてもらい、購入の参考とする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> りぶらの貸出制度に参加し、1年間破損紛失なく利用できた。少しずつ児童生徒の間で新しい本があることが知られてきた。 業者の見本展示は、コロナウイルスの影響もあり、展示した本を多くの人に触れるという状況を作っているのかということや、またその業者から購入するという保証ができないということもあり、実施が難しくなった。
	教務	学習評価の在り方の見直しと改善	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領を踏まえ、個別の指導計画の様式を見直す。 書き方や用語について整理し、共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「児童生徒の学習改善につながるもの」「教師の指導改善につながるもの」「必要性・妥当性」という観点で見直しを図る。 根拠となる辞書を用意し、分かりやすさ、伝わりやすさを考慮して書き方等を整理する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 伝わりやすさや作成の負担軽減と、今後の指導要録への添付を見据え、様式を見直した。校務部会を経て教育課程委員会に提案した。修正を受けて改善し、新たな形式ができた。今後、年度内に部会等で職員への周知を図り、来年度からの活用を行っていききたい。また、用語については、「公用文の表記」を活用していくことにした。今後、周知を深めたい。
学校力の向上	研修	学校経営目標に則り、職員の専門性を高める研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 職員の専門性の向上を目指し、幅広い内容での研修を実施する。 各校務分掌と連携し、夏季研修、自主研修の機会に研修を設定する。 研修を進めるにあたり、参加率や満足度を高める方策を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標に則り、ICT、アセスメント、構造化、進路支援、他機関との連携などの項目で研修を計画する。 研修項目に関連した校務分掌に研修を依頼し、研修の具体的な内容や時期について検討する。 各研修の内容や魅力を具体的に伝え、参加率や満足度の向上を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標と昨年度のアンケートに基づき、研修を行った。一学期は新型コロナ対策のため情報図書部と連携をとり、在宅勤務中でも受けられるようにオンラインでの研修を行えた。 夏季研修は同時間に二つの研修を開催し選択できるようにしたが、研修後のアンケートでもう一方の研修も受けたかったという意見があった。自主研修は当日の研修を動画で取り、共有フォルダに入れて見られるようにしたこと希望者の研修の機会が増えた。今年度は、他機関との連携や外部講師の研修が行えなかったため、来年度以降の実施方法を考える必要がある。
	研修	新学習指導要領に対応した学習指導内容表を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 学部を超えたチーム編成を行い、日常生活の指導、生活単元学習、作業学習、自立活動の各チームで指導目標や指導内容を系統的に整理する。 新学習指導要領をチームごとに読み込み学びを深めながら、学習指導内容表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各研究チームのリーダーと定期的話し合いをし、研究の進め方やまとめ方の共通理解を図る。 教務部、自立活動部と連携を取り、研究に係る研修を計画する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各チームに二名ずつチームリーダーを配し、定期的にチームリーダー会を行うことで研究の進捗状況や問題点などを話し合い、具体的な方針を定めて研究を進められた。 それぞれのチームで学習指導要領を読み込みながら内容表を作成していったが予想よりも内容が深く、当初の計画を大幅に超過してしまった。今年度完成予定だったが、内容のさらなる検討の必要性を感じ、本研究を来年度に持ち越すこととした。また、今年度は新型コロナ対策による時間不足もあったが、研究に関する研修を更に充実させる必要性を感じた。
	支援	関係機関との連携を深め、サポート体制づくりの推進を図る	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーター会を中心に児童生徒情報を共有する。 関係機関との連携記録を供覧し、情報の共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に気になる児童生徒の情報を収集する。 過去の記録があれば、資料として添付し、供覧する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーター会では、気になる児童生徒の情報を共有することができた。また、児童生徒の写真を準備し、提示することができた。 関係機関との連携については、ケース会の記録を供覧することができた。また、過去にケース会を実施している場合は、過去の記録も添付することができた。

学校力の向上

支援	地域支援における職員の専門知識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な支援としてのあいサポート実施する。 複数の教員で構成されたグループでサポート会議を定期的実施する。 あいサポート報告会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援部の職員でサポートチームを編成する。 校務部会の時間を利用し、サポート会議を行い、多角的な観点からの具体的な支援方法を検討する。 現職研修あいサポート報告会に向け、事前に校務部会で報告会を行い、内容の精選を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症流行のため、今年度あいサポートは、実施できなかったが、地域支援としてのひまわり相談について校務部会で取り上げ、主訴に対する意見交換を行った。 ・相談内容を校務部会で時間をかけて話し合うことで、多角的な支援方法や意見を引き出すことができた。その結果、若手教員も相談を担当することができた。 ・記録を、支援部職員に供覧し、情報共有を図ることができた。 ・相談者の希望から高等部卒業後の進路についての相談には、進路指導主事にも参加してもらうことができた。相談者のニーズに合わせた相談活動を実施するうえで、今後も連携していき行きたい。
総務	事務処理の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・行政文書ファイルの効率的な管理方法を検討し、マニュアル化する。 ・新しく配置されるロッカー等の鍵管理を確実に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政文書ファイルの更新や過年度文書の保管場所移動をスムーズに行えるようにする。ファイルの点検作業がしやすいように背表紙を工夫する。 ・新しく入るロッカー等の鍵管理を継続的に行っていくるように、記録簿を作成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・行政文書ファイルの作成年度と保管場所及び廃棄のタイミングを一覧表にまとめ、過年度文書の保管場所移動をスムーズに行えるようにした。ファイルの点検作業がしやすいよう、ファイルNoと廃棄年度を加えた背表紙を同じ規格で作成し貼り付けた。 ・今年度納入のロッカー等に物品番号を付け、物品と鍵に番号シールを貼るとともに、鍵番号と使用場所を加えた鍵管理簿を作成した。今後も新しく入る鍵付き物品の管理を継続し、鍵の受け渡しを確実にし鍵の紛失を防いでいきたい。
総務	確かな学習支援が提供できる体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・倉庫等に保管されている教材教具を場所と物品が分かるように提示し、全職員が有効利用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材室や倉庫内にある教材教具を一覧にまとめデータ化する。 ・写真の添付や検索機能により、分かりやすい提示ができるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌や教科担当で校内の教材教具を調べ、写真に撮った。エクセルデータに写真を添付し、保管場所や使い道を含め一覧表にまとめた。検索の方法を同じデータ内で示し、職員が使いやすいように提示した。 ・教材教具の新規納入や廃棄などに対応するため、継続してデータの書き替えを行う必要がある。
教務	効果的な連携や、確かな学習支援が提供できる体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動部と連携し、職員で共有できる教材・教具ライブラリーを作成する。 ・職員のニーズと活用しやすさという観点から、必要なカテゴリーや分類の仕方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは資産を貯めることを第一とし、例を提示するとともに随時職員に働きかける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動部や総務部と相談し、集約する内容のすみ分けを確認した。校務部会や部会等で計画案を出し、大まかなカテゴリーを作成して教材データを募集した。しかし、啓発や意見聴取があまりできず、蓄積が進んでいない。再度職員に啓発をし、蓄積して活用につなげたい。
自立活動	効果的な連携や、確かな学習支援が提供できる体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部、総務部と連携し、職員で共有できる教材・教具のデータを整理し、活用しやすいものとする。 ・研修部と連携して、職員の専門性を向上する研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務、総務から提示される例に従い、すでにあるデータを発展させる。 ・校内研究のテーマに即した内容の研修を実施し、アンケートを実施して職員のニーズを探る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教務部「教材・教具ライブラリー」について、これまでに集積した教材・教具データに関しては活用できるようファイリングをし、全職員に周知した。新規については作成計画を立て、実行中である。 総務部「お役立ちデータ」は作成完了したが、活用方法について再検討したい。「7つのキーポイント」「構造化」について希望者対象に実施した。実施後のアンケートを基に来年度の計画を立案中である。
指導安全	各種マニュアルの改訂をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震に関する情報の変更に伴い、分かりやすいマニュアルを作成し、保護者に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り簡略化し、A4用紙1枚程度に収める。 ・年度初めに配布する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・別々になっていたマニュアルを検討しながら一つにまとめた。重複する部分は同列にするなど、見てわかりやすいように工夫した。保護者には学校が再開されてからすぐに配布できた。大雨警報の取り扱いについては検討中である。
情報図書	タブレットPC (SurfaceGO) の活用推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・SurfaceGOに関する研修を行う。 ・ペーパーレス会議の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に全職員を対象に研修を行い、タブレットPCならではの便利な使い方を取り上げる。 ・重要度A以外の文書に関しては、校内で行われる会議において可能な限りペーパーレス化を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・surfaceの使い方、写真の活用、onenoteの音声記録機能について説明を行うなどして、職員が端末をより活用できるようにすることができた。 ・部会を中心にonenoteを会議のレジュメとして利用する機会が大幅に増え、紙資料の削減をすることができた。
指導安全	問題行動の早期発見、未然防止をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・現行通りのいじめ対策を継続するとともに、不定期の登下校指導、朝の見回りの継続をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部だけでなく、全校で児童生徒の様子を見ていく。 ・自力通学生に限らず、スクールバス利用児童生徒の指導もする。 ・保護者全体会や懇談会で保護者へマナーの啓発をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不定期の下校指導では、全校に協力を呼びかけ、全校体制で取り組めた。いじめ対応に関しては、チームで素早く対応でき、重大事案にはならなかった。保護者への啓発は保護者会が実施できなかった関係で、文書配布で対応した。
保体	新型コロナウイルス感染拡大防止のための体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、職員が安心安全に過ごせるように各種マニュアルを作成する。 ・家庭や職員に必要な情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真やフローチャートを使ったり、手順を明確にしたりして分かりやすくする。 ・定期的に職員にアンケートを実施して改善点を上げてもらい、よりよい対策を実践する。 ・保健だよりやホームページなどで感染拡大防止対策等の情報の共有を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各種消毒液の使用方法一覧、体調不良者発生時の対応フローチャート、第2、第3保健室の利用の仕方等の資料を分かりやすく作成することができた。学期ごとに校内の感染症対策についてアンケートをとり、意見を吸い上げ改善することができた。保体部から感染拡大防止対策について職員や家庭に積極的に情報提供したが、十分に情報の共有ができていないと感じることもあり、周知の仕方には課題が残る。
進路	外部機関との実習などの環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・事故等の緊急時の補償環境の整備し運営する。 ・警報時の対応を周知し、警報時の実践を図る。 ・食物アレルギーの対応事項をまとめ、保護者、実習先の周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を行う関係各所に書面を用いて説明をする。また、個別の生徒の情報も説明する。 ・保護者周知には書面だけでなく、実習説明会や打合せなどで確認や緊急時の送迎などの依頼をする。 ・警報時や緊急時の職員対応をまとめ周知の徹底を図る。また、食物アレルギーや健康面の配慮事項を個人票に明記するよう徹底する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実習参加者全員の賠償責任保険を確認し、未加入者や希望者には実習に特化した賠償責任保険の加入ができるよう整備した。 ・天候による警報時の対応を紙面配布と説明をしながら実習先・保護者・職員へ周知した。また、職員へは対応マニュアルを作成し、実際の警報時に活用できた。 ・実習先に提出する個人の情報を紙面化した個人票に食物アレルギーに記載を明示した。また、屋食を持参することや実習先からの飲食物の提供を禁止することを徹底した。
小学部	部会などの会議のペーパーレス化	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末と校内ネットワークを使って、サーバーにあるレジュメにアクセスする。 ・レジュメはPDFにて作成する。 ・実施にあたり、マニュアルを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・閲覧アプリは「OneNote」を基本とし、キーボードでの文字入力による追記だけでなく、ペンデバイスを用いた手書き入力による追記もできるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台ずつ配布されたタブレット端末を職員一人一人が活用できるように使い方を覚え、協力していただいた。また、記録係の仕事の手順などに対しても意見をもらえ、改善した。以上のことにより部会と学年主任会においてペーパーレス化が実現できた。

学校力の向上	高等部	高等部入学に向けた教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部見学会への参加対象生徒を、中学校2年生から中学校1・2年生に変更する。 ・部主事、教務主任以外の職員にもできる限り教育相談ができる体制作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校職員との情報交換等を継続的に行い、高等部卒業後の生活に見通しをもった教育相談を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部見学会を、中学部第2学年、中学校第1・2学年の生徒を対象に12月(2日間)に実施し、2日間で生徒、保護者、学校関係者等、合わせて215名の参加者があった。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策下での高等部見学会は、情報伝達の場としては不十分なところが多かった。 ・教育相談の担当者は、新型コロナウイルス感染拡大防止 対策を受けて、原則として部主事と教務主任とした。入学者選考までの流れを考えると、学年主任や校務主任も担当することが望ましい。
	中学部	チームによるアプローチの継続・発展	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の指導体制においても、これまで中学部で大切にしてきたチームによるアプローチが、持続・発展できるようにする。 ・教職員間の共通理解を図りつつ、評価・改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会や学年会、校内研究の時間を活用し、実践を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で学習形態などの見直しをする中で、学年を中心としたチームではチームによるアプローチを大切に、教職員間の共通理解や連携をとることができた。部全体としては部会等で共通理解を図り、チーム意識を高めるようにしてきたが、全体での活動の制約などから関わりが減り、満足できるアプローチにつなげることができなかった。
教師力の向上	保体	ICTを活用した保健教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に合わせてICT教材を作成し、実践する ・各健康診断の手順動画を作成し活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・部ごとに実践をまとめる。まとめたものを全体に周知することで共通理解を図り、実践力・指導力の向上につなげる ・職員に動画についてのアンケートを取り、改善していくことでより活用しやすいものにしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各種検診が延期になり、計画的に実践することが難しかった。そのため事前に手順動画を活用してもらうことがほとんどできなかった。動画を撮ることはできたので、児童生徒の実態に合わせた教材を今年度中に作成し、来年度の検診では活用してもらいたい。
	進路	進路指導における職員の専門知識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自主研修会を実施する。 ・進路指導に関するアンケートを実施し、職員のニーズを聞きとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員施設見学に参加していただけるように啓発する。 ・職員へのアンケートを実施し、ニーズに応じたテーマで研修機会を設定する。 ・校務部会の職員全員で研修内容を確認したり、研修を分担したりして知識を広める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに職員へ進路に関する研修アンケートを実施し、62%の回答から「福祉サービスについて」「将来を見据えた進路支援」の2講座の研修を行った。職員のニーズに応じたテーマを設定することにより、参加者から満足を得る感想が多数あった。 ・研修内容を校務部会で確認し、より詳細な説明をする点など考えられた。また、グループ協議などで進路支援部職員全員で役割を果たしながら研修を運営できた。

学校改善のための評価項目(学校関係者評価)

		評価	評価結果及び今後の課題
新学習指導要領を意識した授業作り	<ul style="list-style-type: none"> ・各部において、新学習指導要領を意識した年間指導計画の作成や授業の展開を行う。 ・合理的配慮を意識し、人権に配慮した児童生徒への指導や学習活動の展開に努める 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部を中心に新学習指導要領に対応した年間指導計画などの作成に取り組んだ。今後、校内研究や研究授業等の場においても、新学習指導要領の視点を踏まえた指導についての成果や反省を考えていく。 ・各部の人権研修や全校での現職研修で、人権に配慮した指導とは何かを考え、普段の指導にフィードバックした。
児童生徒の生活基盤の安定や社会参加に向けて、関係機関との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター会を中心に、児童生徒の情報や課題を共有し、チームとして課題解決に向けて取り組む。 ・各校務における横のつながりを意識するとともに、関係機関との連携を生かし、高い教育効果を得るように努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、コーディネーター会を行い、課題を抱える児童生徒や家庭について情報交換し、対応した。来年度も1ヶ月に2回の設定をするとともに、情報共有の仕方や会の在り方について検討したい。 ・業務内容によっては、各校務が連携して業務にあたったり、関係機関と密に連携を図ったりすることができた。